

刻む会 たより

NO. 82

2021 年 10 月 28 日

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・木村道江

事務局

宇部市常盤町一―一九（宇部緑橋教会内）

TEL 0836（21）8003

カンパ振込先

ゆうちょ銀行 □座番号 01590・7・32405

名義 長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

年会費

《正会員》個人3,000円 団体5,000円
《賛助会員》個人1,000円 団体2,000円

ホームページ

<https://www.chouseitankou.com>

メール

chouseitankou@gmail.com

新たな日本人遺族判明！

山内弘恵

7月24日（土）、TBSサンデーモーニングのコメントーターとして活躍中のフォトジャーナリスト安田菜津紀さん他2名が長生炭鉱の取材に来られ、8月5日、安田さんが連載されている中日新聞にこの時の取材記事を掲載してくださいました（下段掲載記事参照）。この中日新聞の記事を見て、新聞社に問い合わせた方がおられ、「刻む会」とつながりました。

この方は、水没事故の4日後生まれ、父親については炭鉱で亡くなったということしか知らされていませんでした。記事を見て、もしかして：と、問い合わせたところ、犠牲者名簿の中に父親の名前があり、初めて長生炭鉱で亡くなったことが分かりました。

9月11日（土）、息子さんと一緒に宇部に来られ、午前中は、宇部緑橋教会にてお話をされました。父親を亡くし、宇部空襲で焼け出され、その後、朝鮮人が住んでいた電気もない古い土づくりの納屋で生活したことなど、苦労に苦労を重ねてこられた人生を語って下さいました。また、DNA

検体採取にもご協力いただきました。午後は、初めて長生炭鉱跡地や西光寺を訪問され、その後、当時住んでいた家の跡地や、犠牲者である父親の墓石がある墓地などを案内して下さいました。お話しくださった貴重な証言については、今後証言資料集としてまとめていきたいと思っています。



中日新聞

8月5日（木）掲載

<EYES> フォトジャーナリスト 安田菜津紀さん 炭鉱に負の歴史

山口県宇部市、床波（とこなみ）海岸。穏やかに波打つ海辺に人影はまばらだった。海辺からはコンクリートの柱が2本、沖に連なっているのが見える。「ピーヤ」と呼ばれる、かつての炭鉱の排気・排水筒だ。

1942年2月3日、長生（ちょうせい）炭鉱の海底坑道が崩れ、労働者183人が冷たい海にのみ込まれていった。戦争遂行のため、安全を度外視した採掘の中での事故だったことが指摘されている。遺体は今も、海底に置き去りのままだ。

犠牲者のうち136人が、朝鮮の人々だった。とりわけ戦時中、足りない人手と「安価な労働力」が、植民地支配下の朝鮮半島に求められていったとされる。

ピーヤからほど近い広場に、2013年に建てられた追悼碑がある。事故当時の朝鮮半島に対する搾取構造を踏まえ、韓国の遺族からは同じ場で追悼されることに抵抗感を示す声もあった。

地元有志らで結成された「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」が遺族とも議論を重ね、ピーヤの形を模した碑は「日本人犠牲者」「強制連行 韓国・朝鮮人犠牲者」と別々のものとなっている。「刻む会」の山内弘恵さんは、「朝鮮半島から来た一人一人にも、暮らしたがったはず。命があまりに軽く扱われていた時代だったのでは」と語る。

私の祖父は事故の前月、朝鮮半島から下関に渡ってきている。この事故をどう受け止めただろうか。

<やすだ・なつき> 1987年神奈川県生まれ。NPO法人 Dialogue for People（ダイアローグフォーピープル）所属フォトジャーナリスト。同団体の副代表。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に『写真で伝える仕事 -世界の子どもたちと向き合って-』（日本写真企画）他。上智大学卒。TBSテレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。



▼いまだ海底に眠る犠牲者の遺骨



2本の「ピーヤ」が、波間で静かに佇んでいる。

長生炭鉱水没事故——その遺骨は今も海の底に眠っている

佐藤慧（NPO法人ダイアログフォーピープル）

山口県宇部市、床波海岸。防潮堤を越え砂浜に降りると、コンクリートの柱のようなものが2本、海面に突き出ているのが見える。これは「ピーヤ」と呼ばれる排気・排水筒で、かつてこの地に「長生炭鉱」という海底炭鉱があったことを今に伝えている。

このあたり一帯に広がる宇部炭田は、海底炭鉱が中心となっており、山口県の石炭生産量のほとんど全量を排出していた。1932年に再開鉱された「長生炭鉱」も、その豊かな埋蔵資源にあやかり、1941年、開戦の年まで順調に出炭量を増やしている。しかし一転、翌1942年には急激に経営が傾くことになる。「水非常」と呼ばれる、水没事故が起きたのだ。

1942年2月3日早朝、坑口からおよそ1km奥へ入った坑道の天盤が崩壊し、海水が浸水、183人も坑内労働者が命を失った。そのうち136人は、当時日本が植民地として支配していた朝鮮半島から強制連行された、あるいは生活苦から日本への渡航を余儀なくされた人々だった。「長生炭鉱」は別名「朝鮮炭鉱」とも呼ばれるほど、労働者の大部分を朝鮮の人々に依存し、その安価な労働力を踏み台に成長してきた企業だった。左記は「長生炭鉱」の鉱務課、『昭和15年4月起 集団渡航朝鮮人有付記録』に残されている、朝鮮人労働者に対して行われた訓示の内容である。

皆様ヨク御出デニナリマシタ。サテ、皆様モ、カネテ御承知ノ通り只今日本ハ戦争ヲ致シテ居リマス。就キマシテ吾々モ戦地ニコソ立タズ共第一線ニ居ル心持チテ、銃後ヲ守ラネバナライ重大ナ責任ガ御座マス。戦地ニハ、鉄砲ヤ大砲ヤ弾丸ヤ軍艦ナド、色々ナ機械ヲ沢山造ラネバナリマセン。其資材ヲ造ルニハ、第一ニ石炭ガ必要デス。其石炭ヲ掘ル皆様ノ一人一人ガ戦争ヲシテ居ル心持チデ一生懸命ニ作業ニ努メナクテハナリマセン。

ソレガ即チ産業報國デアリ、忠義トナリ、出炭賞与ヲ戴クトカ、或ハ意外ニ沢山ノ金儲トナリ、御家族ノ方ヲ内地ニ呼寄せラセテ楽シク暮ラストカ、又送金ヲシテ喜バセルトカ、云フ様ニナルノデス。（中略）

炭鉱ハ注意サエシテ居レバ誠ニ安心シテ作業ノ出キル所デアリマス。



当時の写真を見ると、「ピーヤ」まで続く栈橋があったことがわかる。

炭鉱は「注意さえしていれば安心」と書かれているが、海底下40mにも満たない浅い海底坑道は、常に漏水が絶えなかった。事故の前年1941年11月30日には、すでに「坑内出水」があったと記録されている。多くの人命が奪われた事故の原因のひとつは「炭柱拂過」、つまり坑内の支柱の過度な除去だった。戦時の増産体制の中、坑道の安全規定は軽んじられていたという。「長生炭鉱」は、法令違反を犯しながら操業を続けており、水没事故は起こるべくして起こった「人災」であった。

そこが危険な炭鉱であるということは、当時近隣の日本人には周知のことであり、朝鮮人労働者が配置されるのは、決まって坑内奥深い——つまり危険度の高い作業現場だったという。天盤が崩壊し海水が流れ込んできたのは、そうした作業場よりも「入り口側」だったため、多くの鉱夫たちは一瞬のうちに脱出経路を断たれ、なすすべもなく犠牲となっていた。そうした人々の遺骨は、今なお暗く冷たい海の底に眠ったままとなっている。

▼「支配する側」に虐げられてきた無数の声
「2013年に追悼碑をつくりました」。そう語るのは、「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の山内弘恵さんだ。会の前身は1991年に、「犠牲者全員の名前を刻んだ追悼碑の建立」「ピーヤの保存」「証言・資料の収集と編纂」を目的に設立された。その翌年以降、毎年事故の日付に合わせて韓国から犠牲者の遺族を招いた追悼集会を開催しており、証言・資料集も刊行、2013年には念願の追悼碑を建立した。



追悼碑広場には、当時の様子を伝える資料も展示されている。

「事故の後、当時の炭鉱関係者や地元の人々が建てた碑もあるのですが、そちらには亡くなった方のうち、136名が朝鮮人だったということが、何ひとつ書かれていないんですね」

2013年に完成した追悼碑は、ピーヤを模した2本のコンクリートの円柱でつくられており、右の追悼碑には「日本人犠牲者」、左の石柱には

「強制連行 韓国朝鮮人犠牲者」と彫られている。その前の石板には、亡くなられた方一人ひとりの名前が刻まれているが、こちらも朝鮮人、日本人の名前の間には黒い線が引かれ、ふたつに分かれている。「当初はひとつの追悼碑を建立しようと思っていたのですが、朝鮮人犠牲者の遺族が、なかなかそれを受け入れられなかったんです」と、山内さんは語る。

8月15日は、日本では「終戦の日」として記憶されているが、韓国では日本による植民地支配からの解放を記念する「光復節」として、そして朝鮮民主主義人民共和国では「解放記念日」として、それぞれ祝日になっている。「終戦」や「戦後」という言葉は、あくまで日本側から見た視点に過ぎず、そうした言葉で時代を区切ったところで、加害の事実が消えるわけではない。今なお、日本社会に見られる差別や偏見、ヘイトクライムやヘイトスピーチは、加害の歴史を「自虐史観」と嘲笑し、きちんと向き合っていないことと無関係ではないだろう。



「ピーヤ」を見ながら説明をする山内さん（左）。

炭鉱により強制動員された朝鮮人は、全員が寮生活を強いられていたという。寮の自由な出入りは禁じられており、脱走を企てようものなら、容赦なく暴力により制裁が加えられた。

長生炭鉱の寮の中に入ったとたん、周囲は人の背の高さの二倍くらいの高い板で囲まれ、どれほど力があってもよじ上れないような塀でした。寮から逃げて、運悪く捕えられ再び連れ戻された時には、素っ裸にされ「鉱夫たち、皆みなさい、リンチがあるから」と言っ、木刀ではなく革の帯を持って、命が亡くなる程リンチされました。

元 長生炭鉱労働者 申世玉（シン・セオク）さんの証言
出典：「証言・資料集」1 アボジは海の底

「支配する側」に虐げられてきた無数の声は、自分が「支配する側」の属性を持っている限り、自ら向き合おうと耳を傾けなければ聞こえてこない。今なお海面から突き出るふたつの「ピーヤ」は、歴史にかき消されそうになっているそうした声を、今に伝えてくれるものでもある。

▼“わだかまり”をほぐしていく

「未だ果たせていないのが『ピーヤの保存』です」と、山内さんは「刻む会」の目的を振り返る。現在の「ピーヤ」は何の保護もないまま波風にさらされており、年々亀裂やコンクリートの破損が激しくなっているという。「全国的に見ても非常に珍しい遺構のことです。せめて文化財にして頂けたら、誰かがいたずらをしたり、壊したりすることも防げると思うのですが……」と山内さん

は言うが、この「長生炭鉱」の事故そのものが、まだまだ世間に知られていないという現実が立ちはある。

「事故があったのが1942年2月と、開戦の直後なんですね。あれだけ多くの人が亡くなった事故であったにもかかわらず、戦意高揚の雰囲気の中、新聞でもほとんど報道されず、ひた隠しにされてきました。歴史に埋もれた事故となってしまうんです」



この一人ひとりに家族がいた」と、山内さんは犠牲者に想いを馳せる。

「なぜそんな昔のことをまだ言い続けているの？と言われることがあります。そんなとき、『だって自分が誰かを傷つけてしまったとき、悪かったねって言うよね？』と、いつも思うんです。なぜそれができないのでしょうか。悪いなと思いつつも、その気持ちに知らん顔をしてしまったら、『悪いことをした』というわだかまりのようなものが、自分の心にもずっと残ると思うんですよね。そうした気持ちを引きずったまま生きていくのも、逆に辛いことなのではないでしょうか。まず

は加害の歴史にきちんと向き合うこと。それができていないのに、『隣国と仲良くしよう』とか、『世界と手を繋ごう』なんて、本当に言えるのでしょうか」

「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の最終的な目標は、海の底に沈む遺骨を掘り起こし、遺族の元へ返すことだという。戦争は、数えきれないほどの「犠牲者」を生むが、それは裏を返せば、それと同じだけの「加害行為」が存在したということだ。そうした加害責任は、あたかも「時の流れ」と「社会の無関心」に希釈されたように、個の責任として感じるものが難しいものもあるだろう。けれど社会の一部、そして過去と未来の中間点に立つ自分自身を自覚することができたなら、その「わだかまり」をほぐすことで、より良い社会を目指すことのできる可能性にも気づくのではないだろうか。2本の「ピーヤ」は今も、波に打たれながら、その可能性を訴え続けている。



Dialogue for People

写真 安田菜津紀
写真・文 佐藤慧

この文章は、NPO 法人 Dialogue for People のホームページで動画と共に掲載されています。ぜひ検索してみてください！

長生炭鉱問題が初めて全国放送で 取り上げられました！

7/16～18 の3日間かけて取材があり、8/14にTBS報道特集の中で数分の放映ではありましたが、長生炭鉱の問題が初めて全国放送で放映されました。

その後、8/22からYouTubeで見逃し配信がなされ、9月上旬には100万回、10月上旬には136万回を超える再生回数となっており、関心の高さがうかがえます。まだご覧になっておられない方、ぜひYouTubeでご覧ください。



第47回長生炭鉱水没事故問題解決協議会 が10月7日（木）webで開催されました！

6月の宇部市定例議会で、共産党の荒川憲幸議員が長生炭鉱問題について質問をしてくださいました。ホームページで公開されている議事録の中から、関係する部分を抜粋して以下掲載します。

10月7日（木）14時～15時45分（15分延長）、第47回目となる長生炭鉱水没事故問題解決協議会がwebで開催されました。Web開催は前回5月に続き2回目です。今回は荒川議員の議会質問を受けての協議会だったのですが、たまたまこの日は山口選挙区の参議院議員選挙告示日で、政党関係者などは参加できず残念でした。Web開催のため、遠方の方も参加が可能で、前回は東京などから、今回も東京、大阪からの参加者がありました。

協議は、いつものように小畑太作事務局長が司会で、協議項目（①遺骨等の収集と返還、②ピーヤ等の保存、③追悼碑への協力、④追悼集会への協力、⑤市民への教育）について概要説明し、検討をお願いしていることを確認しながら進めました。残念ながら何一つ進んでいるものではなく、「持ち帰ります」「検討します」という返答しか聞けませんでした。

なかなか進みませんが、今後もあきらめず継続していきたいと思います。

興味のある方ぜひご参加ください！

6月定例会（第2回） 6月11日―04号

◆質問 10番（荒川憲幸君）

◆10番（荒川憲幸君） それでは、質問の第1、長生炭鉱の問題についてから再質問をさせていただきます。

まず確認ですが、歴代市長は、長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会が取り組んでいる活動については、人道的見地から意義のあるものだと考えているという認識を示されています。

また、長生炭鉱の問題については日韓親善、そして、国際親善の意味から大変重要なことだと思っておりますと答弁されていますが、この見解についても継承されているというふうに考えてよろしいでしょうか。お尋ねいたします。

◎答弁 健康福祉部長（福祉事務所長）（佐々木里佳君）

◎健康福祉部長（福祉事務所長）（佐々木里佳君） 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会が取り組まれております、長生炭鉱水没事故でお亡くなりになられた方を追悼する活動につきましては、人道的見地から意義のあるものだと思っております。以上でございます。

◎答弁 観光・シティプロモーション推進部長（安平幸治君）

◎観光・シティプロモーション推進部長（安平幸治君） まず、平成11年3月議会における当時の藤田市長の答弁、これが、日韓親善、国際親善の意味からも重要と考えているということで、このことについても引き継いでおります。以上でございます。

◆質問 10番（荒川憲幸君）

◆10番（荒川憲幸君） 今までの市長の見解を引き継いでおられるということが確認できました。

それで、今後解決すべき問題点についてお尋ねしましたが、先ほどの答弁では、遺骨の収集等については国家間の問題として、政府が対応している案件であるということで、地方自治体が関与できないということでした。

長生炭鉱の問題について、地方自治体という立場を踏まえて、人道的な見地から取り組んでいくということも答弁の中で言われていたと思いますが、その遺骨の問題は国家間の問題だと、それ以外のことにについては何も答弁されていないかと思うのです。人道的な見地から取り組んでいくというだけで、何のこともさっぱり分からないのですが、この人道的な見地から何を取り組んでいくというふうに言われているのか、前回、その協議会の中でも、46回目の協議会でも解決すべき問題が何かと言明されていないということが指摘をされています。この辺について、明確にする作業を行ってほしいということも要求をされています。

その点について、この場で即答することができないという御回答はされているわけですが、持ち帰って検討するということになっています。

この間どのように、その46回の協議会以後、約1か月弱ありましたが、この間どのように検討されたのか、何が解決すべき問題なのかというのを、現状認識を示していただきたいと思います。できるだけ具体的にお願いいたします。

◎答弁 健康福祉部長（福祉事務所長）（佐々木里佳君）

◎健康福祉部長（福祉事務所長）（佐々木里佳君） 何を問題として、どう解決するかという御質問ですけれども、長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会からの御要望につきましては、その解決に向けて協議をしております。

残念ながら、お互いの意見が相入れないというような状況にはなっております。

これにつきまして、今後も人道的な見地から、この問題に対応してまいりたいと考えております。

ましたけれども、協議会の方からは、市のほうからも積極的に国に対して働きかけてほしいということが要望されていると思うのですが、市から国に対して要望されたことはありませんか。

◆質問 10番（荒川憲幸君）

◆10番（荒川憲幸君） ちよっと具体的に、要求されている問題で、何を協議されているのか、市が把握しているものは一体何なのか、ちよっとその辺を明らかにしてもらえますか。

◎答弁 健康福祉部長（福祉事務所長）（佐々木里佳君）
◎健康福祉部長（福祉事務所長）（佐々木里佳君） 厚生労働省に、これまで職員を3回ほど派遣をしております。

◎答弁 総務財務部長（古林学君）

◎総務財務部長（古林学君） 例えば、追悼集会に市のマイクロバスを貸し出すことができないか、こういった御要望もいただいております。

直近では、平成30年11月、その前にも1月にも派遣をしており、遺骨の収集も含めまして、宇部市の現状等をお伝えし、今後に向けての協議をしたところでございます。

◆質問 10番（荒川憲幸君）

◆10番（荒川憲幸君） 協議会の中でもお答えされているのですが、その協議会での話合いの内容を報告しますということになっていきますよね、国に対して。報告だけであって、宇部市として、その遺骨の収集の意思があって、市としてもぜひやってほしいということを国に対して要望されたということはありますか。

◎答弁 健康福祉部長（福祉事務所長）（佐々木里佳君）
◎健康福祉部長（福祉事務所長）（佐々木里佳君） 訪問の際には、宇部市の現状をお伝えしているところでございます。

◆質問 10番（荒川憲幸君）

◆10番（荒川憲幸君） それだけですかね、市のほうで認識している問題というのは、例えば遺骨の収集、これは国家間の問題として政府が対応している案件だということと答弁され

◎答弁 教育部長（上村浩司君）
◎教育部長（上村浩司君） ピーヤの保存に関して、これまでどのような検討がされてきたかというお尋ねでございます。

◆質問 10番（荒川憲幸君）

◆10番（荒川憲幸君） それだけですかね、市のほうで認識している問題というのは、例えば遺骨の収集、これは国家間の問題として政府が対応している案件だということと答弁され

◎答弁 教育部長（上村浩司君）
◎教育部長（上村浩司君） ピーヤの保存に関して、これまでどのような検討がされてきたかというお尋ねでございます。

だけと、そういう意見がありましたよというだけなのですよ。何で市が積極的に、市としても要望できないのですか。そこがちょっと疑問なのですよね。

ぜひ宇部市としても、国に働きかけてくださいということは要望されているわけです。市から働きかけてください、これには一切応えられていないのですよ。

こういうところに、その誠意がないというふうに見られる1つの要因があるのではないかと思います。

それから、解決すべき問題、課題、例えば、さっきピーヤのことを言われました。土地の問題は確かに大きな問題であるのですが、その前に、ピーヤを保存してくださいという要望が出ています。この保存の是非について、また文化財としての登録も要望されているかと思うのですが、この是非についても、これまでどんな検討がされてきたのかお答えいただきたいと思っております。

◎答弁 教育部長（上村浩司君）
◎教育部長（上村浩司君） ピーヤの保存に関して、これまでどのような検討がされてきたかというお尋ねでございます。

ピーヤにつきましては、文化財として保存してほしいという要望をお聞きしております。

しかしながら、その文化財としての登録のためには、まず対象となるものに文化的価値があって、所有者の維持管理等によって、その文化的価値が存続していくことが必要となっております。ピーヤ等につきましては所有者が不明な状態となっておりまして、本市では所有者が不明の場合には、管理体制が構築できないということで、文化財としての登録保存は行わないことを教育委員会のほうで決定をしております。

以上でございます。

◆質問 10番（荒川憲幸君）

◆10番（荒川憲幸君） 所有者が存在しないという、これずっと以前から言われているわけですが、れども、そもそも仮に所有者があったとした場合、ピーヤに文化財としての価値があるというふうにお考えですか。

◎答弁 教育部長（上村浩司君）

◎教育部長（上村浩司君） ピーヤ自体につきましては、本市の石炭産業の遺構ということでございますので、歴史的価値はあるものとは認識をしております。

しかしながら、これが文化財に当たるかどうかにつきましては、審議会のほうに諮ることができない状況にありますので、これについては不明でございます。

以上でございます。

◆質問 10番（荒川憲幸君）

◆10番（荒川憲幸君） 一般的に所有者がない場合、その所属については国に帰属するという事になっていきますよね、原則的に。本気になって調べて、解決する方向に市が努力しているのかという点が非常に疑問なのです。

昭和17年の事故ですから、およそ80年近くが経過しています。老朽化も進んでいます。早く手を入れないと、現状維持することも困難になってくるといふふうに思われます。

全国的に見ても珍しい、やっぱり貴重な建造物だと思えますし、長生炭鉱の象徴的なものだというふうに思います。

ぜひ、所属、所有者について、今後、国ときちんと詰めていただいて、本当に所有者がないというのであれば、国に帰属させてもらって、文化財としてやはりしっかりと保存していく必要があるのではないかと思うのですが、その点の努力については、今後どのようにされるおつもりか、お聞きいたします。

◎答弁 教育部長（上村浩司君）

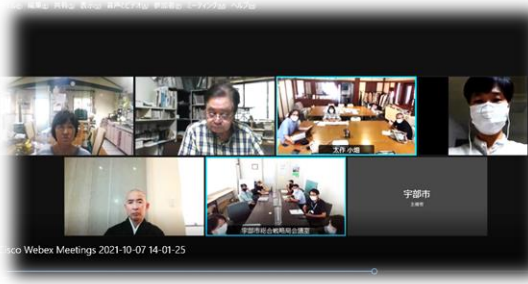
◎教育部長（上村浩司君） 所有者の関係の調査でございますが、所有者につきましては、昭和49年に、こちらの所有していた会社のほうが解散をしているところは確認をしております。ただ、その解散後にその財産等の管理、それがどういうふうになっているのかというところが不明な状況でございます。それについて今後は確認を進めるということになっていくと思います。

以上でございます。

◆質問 10番（荒川憲幸君）

◆10番（荒川憲幸君） 何十年も協議が続いているわけですが、本当にやる気を出して、誠意を持って、本気になって取り組んでいただきたいと思います。

本当にピーヤそのものの存続が危ぶまれているので、積極的にお願いしたいと思っています。



Web で開催されたの協議会の様子

活動日誌（前回はより以降） 太字は記事掲載

7/7(水)	真相究明ネットワーク事務局会議(Web)
7/8(水)	第4回運営委員会(宇部市)
7/14(水)	駐広島大韓民国新総領事ひろば訪問(宇部市)
7/16(金)	山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)
7/18(日)	TBS取材(山口市)
7/20(火)	平和フェスタ第1回打ち合わせ会議(宇部市)
7/24(土)	安田菜津紀さん他2名FW(山口市)
7/30(金)	リア・スミスさんFW(宇部市)
8/5(木)	真相究明ネットワーク事務局会議(Web)
8/10(火)	第5回運営委員会(宇部市)
8/12(木)	(日韓)青少年交流BIYP日韓スタッフ会議(Web)
8/15(日)	ひろば草取り
8/17(火)	(日韓)青少年交流BIYP・ムンノリクラブ(宇部市)
8/18(水)	山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する山口県学事文書課との交渉並びに抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)
9/8(水)	真相究明ネットワーク事務局会議(Web)
9/9(木)	山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)
9/12(日)	第6回運営委員会(宇部市)
9/14(火)	(日韓)青少年交流BIYP・ムンノリクラブ(山口市)
9/16(木)	遺骨問題国政府交渉(Web)
9/18(土)	(日韓)青少年交流BIYP日韓スタッフ会議(Web)
9/21(火)	「問われる産業遺産情報センター」・ユネスコ決議とは？」シンポジウム(Web)
9/25(土)	平和フェスタ第3回打ち合わせ会議(宇部市)
10/7(木)	(日韓)青少年交流BIYP(Web)
10/14(木)	第47回長生炭鉱水没事故問題解決協議会(宇部市)
10/14(木)	第7回運営委員会(宇部市)

BIYP 日韓青少年交流の活動紹介

BUCHEON (プチョン) IKKI-IKKI-ASIA YOUTH EXCHANGE PROGRAM

去る6月12日(土)と9月25日(土)の2回、韓国富川市(プチョン市)と山口県の青少年の交流会をオンラインで開催しました。これまで互いの国を行き来してホームステイや集団活動を通じた交流を8回開催、「刻む会」も長生炭鉱のフィールドワークを通じて活動をバックアップしてきました。世界をうずまくコロナ禍で交流の一時中断が余儀なくされようとしていましたが、BIYPメンバーはあきらめませんでした。コロナ禍でもオンラインならむしろコロナの状況も共有しながら日常的に交流ができるのでは！とポジティブシンキング。メンバーの熱い希望でオンライン交流へとこぎつけました。1回目は互いの自己紹介、活動紹介、テコンドーやダンスなどの出し物を互いに披露、2回目は韓国の料理タッカルビとサンジョクを画面越しにライブでプチョンの青少年に教えてもらいながら作りました。たれから手作りのタッカルビは交流のうれしさも相まって美味でした！オンライン交流を通じる度にお互いを理解して友達になりたい気持ちが毎回強くなっています。次回は日本の料理を紹介する番？まわりの中高生、大学生で日韓交流に興味のある方がおられればぜひお声かけをお願いします!(^^)!

世話人スタッフ 須原志保



6月12日(土)の交流の様子
韓国の会場と日本の会場をオンラインでつないで交流

9月25日(土)の交流の様子
韓国が作り方をオンラインで教えて日本で作りました



日ごろはムンノリクラブとして様々な活動をしています。リアルで交流できる日のために、長生炭鉱ひろばで学習をしたりもしました。

読者からの投稿

＝現地に立つことの意味＝

無窮花堂落成式・祝賀交流会参加から 裴来善
(ペレソン)・裴東録(ペトンノク)さんとの出
会

益田市在住 福原孝浩

前日の夜、裴東録(ペトンノク)さんの事務室兼交流室で裴来善(ペレソン)さんと対面・交流の場に居合わせていた。裴来善(ペレソン)さんご自身の強制労働の体験を伺い、改めて朝鮮植民地下に於ける強制連行・強制労働の実相に「思いを馳せ 心に刻む」ばかりだった。また、この夜の交流会では、「相生市の韓国・朝鮮人無縁仏慰霊碑建立」に尽力された、兵庫県相生市から来られた崔東基さんと金清一(相生平和記念碑を守る会代表)のお二人のお話を伺い驚いた。というのも、私自身も1980年3月まで神戸市で暮らしていたこともあり、相生市で強制連行が行われていたことに無知で、無関心であったことを恥じるばかりだった。



翌日は、早めに会場、国際交流広場「無窮花堂」に入った。福岡県を中心として関係者が次々に駆けつけてこれられ、許可を得て無窮花堂に収められている遺骨に手を掌わさせていただいた。歴史回廊設置予定個所など見学しながら開会式典に臨んだ。裴東録さんと会場の様子を写真に収めておこうと確認し合って、愈々、無窮花堂落成式が開始され、裴来善さんは以下のような挨拶をされた。

「先の戦争において日本の植民地政策により、数多くの朝鮮人と外国人が日本各地に強制連行されました。ここ筑豊には15万人以上に上る朝鮮人が炭鉱で過酷な労働を強いられ、多くの人々が犠牲となりました。筑豊の発展と日本の近代化はまさに朝鮮人をはじめとする外国人労働者の血と、汗と、涙なしには語られません。」

日本の敗戦により、朝鮮半島が植民地支配から解放され、半世紀以上が経過しました。しかし、今なお筑豊の各地には多くの遺骨が放置されたままになっています。『こうした遺骨を収集し納骨堂を建立し追悼しよう』ということに共感した人々の浄財並びに各自治体の協力によって、納骨堂追悼道を建立することができました。

21世紀を迎えるにあたり、歴史的事実を改めて認識し、不幸な過ちを二度と繰り返さない決意を込めて、この追悼堂と国際交流広場を、日本コリア両民族はもとよりすべての人類が恒久平和を希求する発信地として意義をあらしめ、世代を超えて守っていくことを願ってやみません。」

(2000年12月)

在日筑豊コリア強制連行犠牲者 納骨式追悼碑建立実行委員会(石碑に刻まれている)



落成式典の後、九州寿会館に会場を移して追悼堂落成祝賀会に参加した。

昨夜お会いした、相生市から出席されておられた二人と同席して、共に落成祝賀を共感・共有した。

その後、国際交流広場を訪ねたのは、2006年6月頃だったと思うが、裴東録さんに同行して、あるお寺に安置されていた朝鮮人遺骨を裴来善さんが受け取り、無窮花堂に移された。裴東録さんと私はお手伝いしたことを思い出す。

2008年9月に、裴来善先生は天国に召された。遠く益田の地より、心からご冥福をお祈りした。思えば、私が裴来善先生と初めてお会いしたのは、1996年2月の長生炭鉱水非常を歴史に刻む会主催の追悼式の後の集会だったと記憶している。あれから25年の歳月が経過した。



ところで、裴来善さんと出会う前に裴東録さんとの出会いと親交が先にあった。第4回「朝鮮人中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会」1993年に始まる。奈良県香芝市に残るトンスル峯地下軍要塞跡フィールドワークの後、交流会場になっていた信貴山玉蔵院で裴さんと最初の出会いがあったと記憶している。そのころ、裴さんはオモニと二人で参加しておられた。分科会では、馬渡朝鮮人収容所跡(建屋)保存を！と訴えられた。

「日帝時代、強制連行された朝鮮人たちの収容所だった福岡県大牟田市馬渡の三井石炭鉱業の社宅が第三者に売却され、取り壊されることにな

った。この収容所跡の一棟には連行された人が書いたと思われる祖国解放と望郷の思いを込めた壁書が残されており、県内の在日朝鮮人と市民グループらが歴史的意義の高い収容所跡の一部の移築保存運動を始め、同社三池鋳業所に解体延期を要請し、大牟田市などにも保存用地確保のための協力を求めている。」

「私たちは、強制連行の現場であった大牟田に残るこの貴重な収容所跡（建屋）の保存運動を進めています。平和のメモリアルとしてこの貴重歴史的遺産を保存するべく多くの人たちにご協力とご支援を強く訴えるものです。馬渡の朝鮮人収容所跡は余命なく風雲急つぎ今こそ保存しよう。」

（第4回）

朝鮮人中国人 強制連行強制労働を考える全国交流集会《資料集》より引用。

この時以来、全国交流集会では数回にわたって会場で出会い互いの健闘を確認し合ってきた。

（大阪・石川・熊本などの全国交流集会で再開。）

さらに、裴さん一行の姉の、裴東先さん、金美香さん、徐麻弥さん李大美さん等を、私が暮らしている益田市・津和野町の小・中学校にお迎えして、三時間にわたる公演・交流が開催された。前後して6小学校2中学校、一般市民も含めて10回の公演・交流が行われた。この公演・交流は、益田市内・津和野町の児童生徒に、「互いの文化や歴史は異なっても互いに仲良くしていこうね。そのためには過去のことに関心を持っていくことと大切さを学び合いましょね」とメッセージを伝える公演だった。裴さんの1250回公演の中に、益田市・津和野町の学校地域における公演が含まれている。

以上、二人の裴さんとの出会いと再会を通じて、私たち「日本と朝鮮の生活を語る会」の活動に沿った取り組みで異文化交流の具体的な交流の場

となった。《現地に立つことの意味》継続した取り組みだった。こうした取り組みは次の世代につながる交流の場だった、と自負している。ところが、「日本と朝鮮の生活を語る会」は、2003年12月に20年・240回で閉幕した。

その後、16年余り「NPO法人多文化共生と人権文化」を母体としてハンセン病問題、民族問題、先住民族アイヌの歴史と文化、琉球の歴史・文化等について現地の人と親交を持ちながら、学びと訴えと検証をしながら活動してきた。2021年5月、私は80を迎えた。今は、周りの人も互いに年を取り、以前と同じような取り組みは叶わない。「NPO法人多文化共生と人権文化」も役員の高齢化に伴い、今年の5月閉幕した。今では、「市民活動養成塾」（行政と協働）を立ち上げて毎月、人権・平和に関連した研修会を細々と続けている。（民族問題・ハンセン病問題・地域誌に見る部落史・沖縄・アイヌ問題）時には招かれて講話に出かけている。9月で3年になる。もう少し現役でいたいと思っている。ウターン、40年の歩みの一端を記す。

裴東録さんとは、毎年2月上旬前後に行われる、宇部市の長生炭鉱水非常犠牲者の追悼集会と午後の交流研修会は継続して参加して民族衣装の裴さんと再会を繰り返している。また、時々電話での互いの安否を尋ね合っている。



訃報のお知らせ

2021年8月15日(日) 「刻む会」の初代事務局長であった澄田亀三郎さんがお亡くなりになりました。

澄田さんは、「刻む会」発足の中心的人物であり、当時、日本基督教団宇部教会の牧師をされていましたが、宇部緑橋教会の陣内厚生牧師に事務局長を交代されたのち、益田市に移られ、長い間、遠い益田の地から事務局会議に参加されていました。

長い間「刻む会」の活動にご尽力されたことに感謝し、心からのご冥福をお祈りいたします。



《追伸》
澄田亀三郎さんが8月15日永眠されました。益田教会で行われたお別れ会に参加してきました。長生炭鉱水非常犠牲者の追悼集会の集いに声をかけていただいていた以来、20年近く、澄田ご夫妻と参加してきたことが偲ばれます。澄田さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。ゆっくりお休みください。

2021年8月20日

会計報告（2021/6/1～2021/9/30）

【一般会計】

（円）

	科 目	年度予算	期間実績	累計	達成率	備考
	歳入					
1	会費	600,000	112,000	440,000	73.3%	
2	寄付金	860,000	142,700	247,500	28.8%	※
3	物販	15,000	-2,300	-800	-5.3%	
	証言・資料集	10,000	7,700	7,700	77.0%	
	その他	5,000	-10,000	-8,500	-170.0%	前払い
4	雑収入	4,000	0	0	0.0%	
5	前期繰越金	150,000	150,000	150,000	100.0%	
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合 計	1,629,000	402,400	836,700	51.4%	

	歳出					
1	事務費	50,000	5,900	12,393	28.3%	
2	広報費	370,000	67,608	195,297	52.8%	会報誌送料・印刷他
3	会議費	66,000	0	0	0.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	2,493	3,204	32.0%	電気代、除草剤
5	活動費	900,000	25,635	28,635	3.2%	
	学習会等	100,000	1,940	1,940	1.9%	資料代
	追悼集会	600,000	0	0	0.0%	
	その他活動	200,000	23,695	26,695	13.3%	総会関連、テレビ局取材対応
6	他団体会費等	50,000	15,000	15,000	30.0%	無窮花堂、東京朝鮮人強制連行真相調査団
7	雑支出	50,000	6,454	6,809	13.6%	
	手数料	40,000	1,691	2,046	5.1%	郵便局
	その他	10,000	4,763	4,763	47.6%	弔電 2 件
8	予備費	98,000		0	0.0%	
9	特別会計へ繰出	35,000	0	0	0.0%	
	小 計	1,629,000	123,090	263,094	16.2%	
10	繰越金	0	279,310	573,606		
	合 計	1,629,000	402,400	836,700	51.4%	

※寄付者（敬称略）

浅野 直人 市川真美恵 内岡 貞雄 内山 新吾 大槻 政宏 岡崎 絹江 金澤 正善
鎌田 清 鎌野 真 岸本 武夫 木村 和彦 慎 民子 リア・スミス 寺尾 光身
時田 絹江 中村 満吉 林 修二 福川 寿子 藤井 正一 松本 隆 水谷 和子
水谷 淳 宮下 純子 安田菜津紀 柳田 雅江 矢野 秀喜 山本 興治 その他匿名12件

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	68,292				
繰入金	519,997	前年度より	繰越金	588,289	
合 計	588,289		合 計	588,289	

【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,746,968		DNA 鑑定	26,114	1 名旅費補助他
繰入金	0		繰越金	1,720,854	
合 計	1,746,968		合 計	1,746,968	

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

書籍のご案内

事務局で取り扱っている書籍のご案内です。ご希望の方は、事務局までご連絡ください！

日帝強占下強制動員被害真相究明委員会編

日帝強制動員被害者支援財団・日本語翻訳協力委員会訳

「日帝強制動員被害者支援財団翻訳叢書」（以下、「翻訳叢書」）

企画・発行：日帝強制動員被害者支援財団

日本語冊子（2020年12月発行）※金額はカンパ（送料込み）

5冊セット
4,000円



1. 翻訳叢書⑤口述記録集

『我が身に刻まれた八月 広島・長崎強制動員被害者の原爆体験』 A5 601頁
2020.12（韓国語版 2009年）1000円



2. 翻訳叢書⑥口述記録集

『聞こえてる？日本軍「慰安婦」12人の少女の物語』 A5 414頁
（韓国語版 2013年）1000円

3. 翻訳叢書⑦図録

『写真で見る強制動員の話—日本・北海道編—』 B5 変形判 182頁
2020.12（韓国語版 2009年）1000円



4. 翻訳叢書⑧報告書

『南洋群島への朝鮮人労務者強制動員実態調査』 A5 105頁
2020.12（韓国語版 2012年）500円



5. 翻訳叢書⑨報告書

『端島炭鉱での強制動員朝鮮人死亡者実態調査（1939～1941）』
A5 158頁 2020.12（韓国語版 2009年）500円



長生炭鉱水没事故

80周年

犠牲者追悼集会

2022年2月12日(土)

開催決定！

詳細は次号にて お知らせします！

今後の予定

- 2021年10月18日(月) 19:00～
真相究明ネットワーク事務局会議(web)
- 2021年10月22日(金) 11:00～12:00
山口県との協議
- 2021年11月3日(水) 10:00～
平和フェスタ(同封チラシ参照)
- 2021年11月11日(木) 10:00～15:00
第8回運営委員会
- 2021年11月10日(水) 11:40～
山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会
- 2021年12月23日(木) 10:00～12:30
第9回運営委員会

同封物

- ★「平和フェスタ」チラシ
- ★振込用紙

今年度の会費納入及び、
カンパをお願いします！

※納入情報は封筒の宛名下に記載していますので
ご確認ください。

事務局より 会員動静（2021年10月13日現在）

正会員	133名（総会比+3名）
賛助会員	267名（総会比-1名）
寄付者	106名（総会比+3名）
計	506名（総会比+5名）

会員・寄付者募集中！知人・友人にぜひ一声お願いします！